

詩集——大地

発行——一九八七年十一月一日

著者——堀口定義

発行者——小田久郎

発行所——株式会社思潮社

東京都新宿区市谷砂土原町三—十五
電話(二六七)八一四一(代)

印刷所——相良整版・福田印刷

製本所——岩佐製本所

定価——二〇〇〇円



大地

堀口定義

思潮社

大地

堀口定義

目次

牧牛

II

エトランゼ

15

ロツジボール^oパイン

19

エメラルドの涙

23

分水嶺

27

レークル^oイーズの朝

31

アサバスタ氷河

35

雨は雪になつて

39

ゴーストタウン

43

アリゾナのサボテン

47

グランドキャニオン 51

砂漠 55

砂漠 その二 59

砂漠と人間 63

乾河 67

DEATH VALLEY 71

ラスベガス 75

レモンの木の下のニューヨーク 79

日本は泣いていた 83

大地 87

詩集
大地

牧
牛

列車は 朝バンクーバーを発ってジャスパーに向っている
三時間もたっているのに 地図では

まだ 僅かの距離しか来ていない

走るより停っている時間の方が長いような気がする

停るところには きまったように牧場がある

どこでも牛は深々と頭を牧草に垂れている

大きな体軀を成育させるには あのように

草を食まなければならないのだろう

草を食めば食むほど 育てば育つほど

屠場への道程は短くなる

そう思うと

あたりは忽ち鮮血に彩られる しかし

緑の大地は限りなく広がり

そんな想念をかき消そうとしている

いや あの牛の平和な姿をみていると

人間の悪意を知って 悠々と

死に向って歩んでいるとしか思えない

わたしの牧場にも高いサイロが立っており

細かく仕切られた重層の牧舎がある そこで

激しく働き にがよもぎの交った草を食み

生の意味を反芻する暇もなかった

たまたま そこを離れ こうして

カナダの鉄路に揺られているのだ

わたしの屠場は 一体どこにあるのか

また いつ そこに着くのだろう

旅の中の束の間だけでいい

運命を知らないもののように

浮いては流れる白雲と

低い山々に遠く抱かれた美しい風景を

眼球の上に映しながら 無心に

緑の草を食もう

牛よ

エトランゼ